

BRC Top

お知らせ

ご挨拶

事業の概要

技術研修

組織図

各室概要

公開情報

リソース検討委員会

個人情報保護

採用情報 

アクセス

リソース検索

利用方法

提供申込み

寄託申込み

提供手数料

支払方法

総合カタログ

利用者登録

メールニュース

関連リンク

お問い合わせ先

公開情報

新規変異マウス研究開発チーム

権藤 洋一 チームリーダー

1. 設定した目標の妥当性

1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

目標には合致しており、10,000頭のライブラリーはBRCのリソースとして非常に重要である。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

リソースの付加価値を高める研究で、BRCの目標達成に貢献する道筋は明確である。1,000ドルシーケンシングシステムの導入への道筋を明らかにして欲しい。

2) 5年間で達成可能な目標か？

達成可能と思われるが、理研内チーム間あるいは理研外との連携をさらに強める必要がある。

3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

国際的な連携をとっており、ENUコンソーシアムのHubになる可能性がある。

2. 目標達成のための計画の妥当性

1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

具体的な計画である。リソースの重要性を示すために、成功例を多数出す必要がある。

2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

センターにとって優先度の高い必須な計画でありマウス遺伝学を支える事業として重要である。更なる発展が期待できる。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

国際的な開発計画の一環と考えられ、世界的なリソースの重要な部分を担っている。継続することにより発展する可能性高い。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

研究資源が不足している。この不足を、予算・人員の増強もしくは理研内外との共同研究により切り抜ける方策を考えるべきである。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

経験・実績は充分と判断する。NRGに掲載された総説は高く評価される。専任の情報系のサポートが必要ではないか。

3. その他

100,000頭のライブラリーが大切である。

理研内外を問わず連携により、このプロジェクトを強く推進していく必要がある。

国内広報活動が重要。各大学の動物センター等を通じて実施すべき。

できるだけ国内のグループで、2,3の成功例を示して行くことが重要である。

精神疾患は倫理面をクリアーすることをよく考えて欲しい。

Review(Nat Rev Genet)をまとめたのは高く評価できる。

